

J S A 16 総学プレシンポジウム

“ 京都の大学問題を考える ”

2004年4月に政府の行政改革の一環として国立大学が法人化されて、2年半が経過しました。また、公立大学も法人化を含む大幅な改革に直面しています。このような「大学改革」は日本経済の国際競争力強化のために大学の知的資源を総動員する手段として構想されてきました。

今、国立大学では運営交付金が毎年1%削減されて基礎研究を行う基盤が弱体化する一方で、「競争的資金」に基づく研究が奨励され、産学連携による外部資金の導入が増加してきています。近年の科学技術政策においては、産学連携が大学の「社会貢献」の重要な形態として強調され、法人化後の各大学の中期目標・中期計画では産学連携が重要な位置を占めています。研究費の獲得に気をとられ、基礎的な研究が軽視されると、大学の本来の役割が果たせなくなります。

シンポジウムでは、現在進行している大学の変化の実態を明らかにし、大学の進むべき方向について議論したいと考えています。会員外の方々も誘って、ぜひご参加下さい。

日 時：2006年10月29日（日） 13:30～17:00

場 所：キャンパスプラザ京都 2階第1会議室

参加費：200円（資料代）

報 告

- ・大倉弘之氏（京都工芸繊維大学）
「学校教育法の改定と大学教員の任期制について」
- ・細川友秀氏（京都教育大学）
「京都教育大学の法人化とその後」
- ・上野鉄男氏（京都大学）
「京大の最近の変化とわれわれの役割」
- ・中島正雄氏（京都府立大学）
「京都府の大学改革と組合の取組み」
総合討論（16:00～17:00）

会員でなくても、テーマに関心のある方はどなたでも参加できます。お問い合わせは、下記にお願いします。

日本科学者会議京都支部事務局: Fax 075-256-3132,

e-mail; jsak-jousen@yahoogroups.jp



主催 日本科学者会議京都支部